

# 社会科（公民的分野）学習構想案

期 日 令和6年11月12日（火）第5校時

場 所 水俣第一中学校体育館

学 級 3年2組 36名

指導者 水俣第一中学校 教諭 井上 舜

## 1 単元構想

単元名	第3章 3節「地方自治と私たち」（東京書籍P.110～126）		
単元の目標	<p>(1) 地方公共団体の政治に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に読み取ったり図表にまとめたりしながら、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</p> <p>(2) 地方自治の課題とその解決に向けて、対立と合意、効率と公正、民主主義などの視点に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>(3) 地方自治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を身につけるために、地方自治や住民参加の課題を主体的に見出して追究し、解決しようとしている。</p>		
単元終了時に期待する生徒の姿			
主体的に地域の課題を解決し、持続可能な地域の形成に参画しようとする生徒			
指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時5／6）			
過程	時間	主発問及び 主に働かせたい見方・考え方	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	3	<p>【効率と公正】 【民主主義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治はどのように行われているのだろう。</li> </ul> <p>【対立と合意】 【効率と公正】 【民主主義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方財政の課題を含む水俣市の課題を解決するために、どのような取り組みがなされているのだろう。</li> </ul> <p>【対立と合意】 【効率と公正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水俣市の住民は、どのようなことを地域の魅力や課題と考えているのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治がどのような考えに基づいて行われているか、またその仕組みについて理解している。(知・技)</li> <li>地方の自治体や水俣市の課題について調べ、解決のためにどのようなことが考えられるか、考察し、表現している。(思・判・表)</li> <li>直接請求権や住民投票などの住民の権利について理解している。(知・技)</li> <li>水俣市が実施した「水俣市民意識調査（アンケート）」「水俣市に関するアンケート」調査（中学生）を分析し、様々な世代が考えている魅力や課題を整理し、表現している。(思・判・表)</li> </ul>
		単元を貫く課題： 持続可能な水俣市にするために、市民に必要なことは何だろう。	
課題追究	2	<p>【対立と合意】 【効率と公正】 【民主主義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動の課題を改善するためには、どのようなことを考えるとよいのだろう。</li> </ul> <p>【持続可能性】 【民主主義】（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動をより良く発展させるためには、どのようなことを考えるとよいのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動の改善策について考察し、表現している。(思・判・表)</li> <li>コミュニケーション活動の意義にせまり、より良く発展させようと持続可能性の視点を踏まえながら、考察し、表現している。(思・判・表)</li> </ul>
課題解決	1	<p>【対立と合意】 【効率と公正】 【民主主義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な水俣市にするために、市民に必要なことは何だろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民として、持続可能な水俣市にしていくために必要なことを考え、表現している。(思・判・表) (態)</li> </ul>

## 2 本実践のねらいと生徒の実態

本実践（単元）のねらい					
<p>学習指導要領〔公民的分野〕のCの「私たちの政治参加」の（2）「民主政治と政治参加」を受けて設定されており、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解することをねらいとしている。</p> <p>このことを理解できるようにするために、身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連付けて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することが大切である。</p>					
本単元における系統					
小学校第6学年 ともに生きる暮らしと政治	中学校第2学年（地理的分野） 第4章 身近な地域の調査	中学校第3学年（公民的分野） 第3章 現代の民主政治と社会 3節 「地方自治と私たち」			
生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）					
<b>■本単元を学習する以前の内容理解</b>				（単位：32人）	
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない	
持続可能について、説明できる。	4	16	10	2	
地方自治について、説明できる。	1	6	21	4	
NPOについて、説明できる。	4	6	15	7	
<b>■本単元の学習に関する意識の状況</b>				（単位：32人）	
調査内容	とても	まあまあ	どちらでも	あまり	ない
大人になって、地域の活動（清掃活動・分別活動など）に参加したいと思いますか。	3	13	12	3	1
ゴミケ（リサイクル活動）をどう思いますか。	14	13	4	0	1
今後もゴミケ（リサイクル活動）は、続けるべきだと思いますか。	14	14	3	1	0
ゴミュニケーション活動に対するイメージ （自由記述）	○地域の人とコミュニケーションをとりながらゴミを分別できる良い取り組みだと思う。 ○環境について考えることができ、分別について知ることができる。 ●参加する人数が限られている。 ●時間もとられるため面倒だと感じる。				
<b>■考察</b> 事前アンケートでは、ゴミュニケーション活動に対して多くの生徒が肯定的に捉えている。理由として、「環境に良い取組」や「地域の人とコミュニケーションがとれる」という意見が多数を占めた。一方で、大人になって地域の活動（清掃活動・分別活動など）に参加したいと思う割合は半数程度であり、義務感で参加している生徒が多いと推察する。本校生徒にとって身近なゴミュニケーション活動について考える活動を通して、他地域との資料の比較や「効率」「公正」という視点からゴミュニケーション活動の良さに改めて気づき、市民である自分たちが主体的に地域の課題を解決しようとする姿が水俣市を持続可能にしていくということに気づかせたい。					

## 3 指導に当たっての留意点

- 水俣市が実施した「水俣市民意識調査（アンケート）」「水俣市に関するアンケート」調査（中学生）を分析し、持続可能な水俣市について考える活動を通して、住民自身の意見が地方公共団体を通じ地域の課題を改善していくことが地方自治であることを理解させる。
- 地方自治は自分たち中学生にとっても身近であるという実感を持たせる。
- 地域の課題を改善し、住民の幸福を実現するためには、住民自身の行動が不可欠であることに気付かせ、地方自治に主体的に参加しようとする態度を育む。

#### 4 本時の学習

(1) 目標 ゴミコミュニケーション活動の意義について、持続可能性を踏まえた議論を通して考察し、説明することができる。

#### (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◆予想される生徒の発言 ※生み出したい問い)	指導上の留意事項
導入	5分	<p><b>1 前時で考えた改善策を確認し、本時の学習課題をつかむ。</b></p> <p>①前時で考えた改善策を確認する。</p> <p>②リサイクル率の高い自治体のグラフを分析する。 ◆水俣市よりリサイクル率が高い自治体が多くある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※水俣市もリサイクル率を高める活動をもっと進めていくべきではないか。</p> </div>	<p>○前時で考えた改善策やコミュニケーション活動の良さ、課題についての資料を掲示しておく。</p> <p>○上勝町と志布志市に着目させる。 ○水俣市のリサイクル率にラインを引かせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【学習課題】</b> ゴミコミュニケーションの活動を通して、水俣市は何を目指していきべきか。</p> </div>			
展開	35分	<p><b>2 課題の解決に向けて活動する。</b></p> <p>①学習課題に対して予想する。 ◆環境モデル都市としてリサイクル率を高めたほうがよい。 ◆地域との関わりを大切にされた方がよい。</p> <p>②予想に対して意見を再考する。 ◆リサイクル率だけ向上させてもいけないのではないか。 ◆ゴミを減らして先進的な取り組みを発信するべきなのではないか。</p> <p>③再考した意見の整理とランク付けを行う。 ◆住民自治が重要である。一人一人の参画が地域社会を作ることにつながるから。 ◆持続可能性が重要である。リサイクルだけでなく4Rによるゴミの減量にも取り組むべき。 ◆先進性が重要である。「環境モデル都市」として先進的な取り組みを日本や世界に発信すべき。</p>	<p>○これまでの学習と資料を踏まえて予想させる。</p> <p>○4Rの資料・「ゼロウェイスト宣言」の資料を提示し、新しい資料を根拠に再考させる。 ○多面的・多角的な意見が出るようにコーディネートする。</p> <p>○5つの視点（協働・教訓・住民自治・持続可能性・先進性）で整理しランク付けさせる。</p>
終末	10分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【追究課題】</b> 水俣市がゴミコミュニケーションの行うのはなぜか。</p> </div> <p><b>3 本時の学習をまとめる。</b></p> <p>◆一人一人が地域の方と協力しながらゴミコミュニケーションを行うことでリサイクル率をあげるとともに、ゴミの減量を目指していきべき。</p>	<p>○本時のまとめをワークシートに記入、発表させ、次回につなげる。 ○新聞記事から水俣市のリサイクル活動の良さに気づかせる。</p>

#### (3) 本時の評価

評価の観点	評価基準
思考・判断・表現	A：ゴミコミュニケーション活動の意義にせまり、より良く発展させようと持続可能性の視点を踏まえながら、考察し、表現している。
	B：ゴミコミュニケーション活動の意義にせまり、より良く発展させようと考察し、表現している。